|  |
| --- |
| ベアリング製造業 |

ベアリングの受注は、中国をはじめとした外需縮小や、主な需要分野である産業機械、自動車向けの不調で減少している。概ね減収減益であるものの、高付加価値化や多角化のために設備投資に前向きな企業もみられる。

業界の概要

ベアリング（軸受）は、機械の回転軸を支えて、円滑に回転運動・滑り運動させる機械部品である。「転がり軸受」と「滑り軸受」に大別されるが、「滑り軸受」は、大型船舶用などの特殊な用途に用いられ、ユーザーが内製することも多いため、ここでは「転がり軸受」を取り上げる。

「転がり軸受」は、回転軸とともに回転する内輪と、フレーム又は軸受箱に固定される外輪との間に、玉やころなどの転動体が配置され、保持器によって一定の間隔を保ちながら円滑な転がり運動させるような構造になっている。接触面が少なくなることから、摩擦が小さくなり、エネルギーの伝達が円滑に行われる。ベアリングの性能が機械の機能を左右する重要な要素となっているため、高い精度、耐久性、静粛性、低振動性などを求められる。

需要分野は多岐にわたり、製品の大きさも数ミリから10メートル以上まで幅広い。自動車などの大量生産品目だけでなく、多品種少量生産の品目にも用いられるため、製品の種類は２万種以上とも言われている。

2018年におけるベアリングの需要先は、国内需要が62.9％を占めている。国内需要の内訳をみると、最大の受注分野が自動車・同付属品で60.5％を占め、次いで、はん用・生産用機械が20.8％を占める（内閣府「機械受注統計」）。

ベアリング製造業は、装置産業であることから量産効果が大きい。このため、大企業の生産比率が７割を超える（表１）。完成品における上位３社のシェアは６割程度を占める寡占状態にある。中小企業でも独自のブランドを持つものの、資本面や販売面での系列化も進んでいる。

大阪の地位

大阪府における玉軸受・ころ軸受の事業所数は85、従業者数は7,074人、製造品出荷額等は2,167億円で、全国に占めるシェアは、それぞれ22.7％、17.0％、16.7％で、いずれも全国第１位である（表２）。

大阪府内では、堺市を中心とした泉北地区に集中して立地しており、大阪市や南河内地区にも集積がみられる。

生産は2019年以降に減少基調

生産は、中国で設備投資が活発であった2017年は好調で、2018年も増加が続いたが、2019年に入ってからは減少基調となっている（表３）。10月、11月には金額、個数ともに２桁減と、減少幅が拡大している。

受注の推移をみると、内需、外需とも減少しており、７～９月期以降は特に海外需要の減少幅の方が大きい（表４）。

中国を起点とした需要の縮小

府内企業の動向をみても、2019年10～12月期には前年同期比で１割程度の落ち込みである。

外需については、2018年末から米中貿易摩擦を背景に中国向けをはじめとした海外からの受注が減少し始めた。

欧州向けの受注についても、ドイツ等の自動車メーカーによる中国向け輸出が減少していることなどから減少している。

中南米向け輸出も、中国が中南米からの鉱物資源や農産物などの輸入を減らしたことに加え、現地通貨の為替安による購買力低下から減少している。

韓国向けの輸出も、中国経済の減速を背景に2019年10月頃から減少に転じたという。

内需も、産業機械向け、自動車向けともに2018年末からは弱含みで推移している。ある企業では、現在の受注の減少率は、産業機械向けが15～20％減、自動車向けが５％減という。

収益は悪化

最終ユーザーである自動車業界向けは、原価低減のために毎年年２回受注単価の引き下げ要求があるが、成熟化した製品であるため原価低減が困難である。最低賃金の上昇などもあり、収益率の低下要因となっている。

一方、外注先の廃業が、コスト上昇要因になっている。鋼材の切断や切削などを外注する零細企業の廃業が相次ぎ、代わりの業者の探索や、内製での対応により、納品までの期間が長くなったり、生産コストが上昇したりするからである。

物流費は上昇傾向にある。ただし、受注先との共同配送をするなど、出荷ルートの見直しや積載効率の向上によりコスト上昇を抑制している企業もみられた。

売上額が減少していることから、減益で売上高利益率も低下しているが、今のところ概ね黒字や収支トントンを維持している。

設備投資は底堅い

2018年時点での好調な需要に対して計画されていた能力増強投資については、受注減少によって中止した企業があった。

一方で、中国製品等と差別化できる高付加価値製品の生産のための設備投資を実施している企業もある。また、ベアリングの受注減少の一方で、他の自動車部品の受注が好調という企業では、そのための設備投資を実施している。

人手不足を背景に、省力化・合理化投資は継続的に実施されている。

採用状況はまちまち

比較的規模の大きい企業では、計画通りの採用が行え、生産現場に配属する工業系の新卒者の採用が容易になったという。

その一方で、数名の新卒採用を予定していたが、2019年度に１人採用できたものの、2020年度には応募がなかったという企業もあり、派遣労働者で凌いでいる。

給与については、2018年度の業績が良かったことから2019年度に賃上げを実施し、賞与も前年よりも増加した企業が少なくない。ただし、昨今の収益悪化の下で、2020年度の賃上げや賞与は抑制される見込みである。

表１　玉軸受・ころ軸受製造業の規模構造（2008年）



資料： 経済産業省「平成20（2008年）年工業統計表」

（注）ラジアル玉軸受、その他の玉軸受、ころ軸受は、軸受ユニット用を除く。

表２　玉軸受・ころ軸受製造業の概要(2017年)



資料： 経済産業省「平成30（2018）年工業統計表」

（注）従業者４人以上

今後の見通し

受注の減少はしばらく続き、2020年１～３月には２割減を見込む企業がある。

受注先に在庫があり、出荷が滞っていることが一因であるが、受注先で在庫調整が進みつつことへの期待もみられる。在庫個数をみると、2018年末には高い水準になっていたが、2019年に入って増加率が徐々に低下し、11月にはマイナスになっており、在庫調整が進んでいる。

また、次世代通信規格である５Ｇ関連投資により、半導体やロボット関連の需要が持ち直すことが期待されている。

中長期的には、電気自動車の普及に伴い、エンジン関連のベアリング部品の需要減少が懸念される。一方で、中国やインドでの販売台数が中長期的には増加し、車の電動化が進む中で増加する需要も見込まれるため、世界的な需要は今後とも伸びるとみる向きもある。

（町田　光弘）

※前回の調査時期は、2014年１～３月期

表３　軸受製造業の生産と在庫



資料：経済産業省「生産動態統計月報」

（注）従業者50名以上の事業所

表４　軸受製造業の受注額



資料：内閣府「機械受注統計」